

# 「世界へ広がる日本文化」

## ～いけばなから Ikebana へ～

2017年8月5日（土）実施 JGA 第一支部研修 終了報告

8月5日（土）13:30 から 16:30 まで港勤労福祉会館 1階第一洋室におきまして JGA 第一支部主催のいけばな研修が開催されました。出席者は 29 名（JGA 会員 25 名、非会員 2 名、運営委員 2 名）、会場にたくさんの花が搬入され、開始前から華やかな雰囲気に包まれました。本日の講師は草月流師範理事である平塚春子氏です。涼しげな着物で登場されました。JGA 正会員、通訳案内士で普段からご活躍でいらっしやいます。



研修は二部構成。第一部は、いけばなの起源から発展についての歴史を学びました。講師が用意してくださった丁寧な資料に沿って講義が進みました。

いけばなとは元々は神道における神の「依り代」として、松など常緑樹を立てて神を招いたことから始まっています。その後、仏教が伝来し「供花」仏前に花を供える習慣がもたらされました。室町時代になって現代のいけばなの土台ができ、その後、生活空間の変化に合わせて花のいけ方も形を変えていきます。



現代の主ないけばな流派は池坊、小原流、草月流ですが、実際はもっとたくさんあるそうです。草月流の会員だけでも 30000 人いらっしゃるそうです。西洋のフラワーアレンジメントと日本のいけばなの違いについても学びました。

休憩をはさみ、14:50 からの第二部は講師によるいけばなのデモンストレーションから始まりました。剣山を使ったもり花と美しい陶器の花瓶に、講師が次々とお花をいけていきました。はさみを使って枝の先を水切り、その時水を吸いやすくするために先を斜めに、しかもボールの中で切るそうです。すべての行為に理由があり、プロセスが大事なのだと学びました。



そのあと、講師からのサプライズとして、受講者から 3 人が選ばれ、りんどうとニュージーランドフラックスを使ったいけばな体験の時間がありました。その後受講者からのたくさんの質問に対しご丁寧にご回答いただき 16:30 すぎに終了しました。

今回の研修を通じ、いけばなは日本の伝統文化であると改めて認識しました。型があり、余白に美を見出す。美しい草木に触れ、心が豊かになりました。

自然を愛で、花を飾る。この心を通訳案内士として外国のお客様にお伝えしていきたいと思いました。

